

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催フィールド言語学ワークショップ

第24回文法研究ワークショップ

「説得力のある記述とはなにか：言語記述における科学的論証」

開催のお知らせ・募集要項

言語の記述を行う際には、観察から直接わかることを述べるだけでなく、自明ではない主張をすることが避けられません。その場合には潜在的には複数ある仮説のうち、なんらかの根拠に基づき一つを選択して論証することになります。その際、説得力のある（妥当性の高い）論証にするにはどのような点を考慮すればよいのでしょうか。また、あることが「観察から直接わかること」なのか「議論が必要な主張」なのかの判断も難しい場合があります。このワークショップでは、各登壇者に自身の研究の中で行った論証の具体例を紹介してもらい、文法記述に（も）不可欠な科学的思考についての理解を深めたいと思います。

記

1. 開催日時： 2024年1月30日（火）13:00–17:00
2. 開催方法： ハイブリッド開催
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 大会議室（3階303室）および ZOOM 会議室（参加情報は開始1時間前までに登録者にお送りします）
3. プログラム： 12:50 開室
13:00–13:20 氏家啓吾（国立国語研究所）
趣旨説明
13:20–13:50 白田理人（広島大学）
「共時的証拠に基づく通時的变化の論証について—北琉球奄美喜界島方言の文末形式を例に—」
13:50–14:20 浅岡健志朗（東京大学大学院）

「意味記述における素朴な直観の役割とその限界について：チェコ語の所有構文を例にして」

14:20–14:30 休憩

14:30–15:00 石塚政行（東京農工大学）

「記述言語学における論証とリンク発見ゲーム：バスク語文法記述を例に」

15:00–15:30 中澤光平（信州大学）

「アクセント単位は内省と一致するのか？」

15:30–15:40 休憩

15:40–16:10 古本真（AA 研ジュニア・フェロー）

「スワヒリ語マクンドゥチ方言の俯瞰的理解とその記述における論証」

16:10–17:00 参加者全員

座談会

コーディネーター：氏家啓吾・古本真

4. 参加資格：上記のテーマに関心のある研究者・学生

※大学院生以上を原則とします。それ以外の方についてはメールでご相談ください。

5. 定員：対面参加 20 名程度（オンライン参加の上限はありません）

6. 参加申込方法：下記 URL にアクセスして、ご登録ください。

なお、右記 QR コードからでも同じページにアクセスできます。



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScu99fIErDPs7ufF0RX2rEGlXteWj3zoupN9H3lixsB3A6FA/viewform?usp=sf_link

7. 申込締切：1月29日（月）正午（ただし定員に達し次第締め切ります）

8. 問い合わせ先：

「アジア・アフリカの言語動態の記述と記録：アジア・アフリカに生きる人々の言語・文化への深い理解を目指して（DDDLing）」事務局

dddling-office [at] tufs.ac.jp（[at]を@に変えて送信ください）

9. その他：

- ・ワークショップは日本語でおこないます。
- ・参加は無料です。

※ ご不明な点がございましたら、上記「8. 問い合わせ先」までご連絡ください。

※ 文法研究ワークショップは、記述言語学を志す学生や研究者が最新の研究成果や調査データを紹介しあうことにより、学生・研究者の交流や、情報共有を行なうことを目的としたワークショップです。過去のワークショップにつきましては、以下をご覧ください。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/fieldling-ws/grammar-wr-ws>

※ 当日は東京外国語大学のネットワークが利用可能です。また eduroam も利用可能です。

主催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「アジア・アフリカの言語動態の記述と記録：アジア・アフリカに生きる人々の言語・文化への深い理解を目指して (DDDLing)」

以上